



2020年夏
No.177

日本 リハビリテーション 病院・施設協会誌



特集	新型コロナウイルス感染症の対応を経験して	
	一風評被害による医療崩壊を起こさないために ……	23
	新型コロナウイルス感染者対応経験 ……	26

巻頭言	
グローバル, ドメスティック, ローカル, コミュニティ再考そしてファクトフルネス 大串 幹	3
特集 特別寄稿	
新型コロナウイルス感染症の対応を経験して一風評被害による医療崩壊を起こさないための提案 平田好文	23
新型コロナウイルス感染者対応経験 山口 豊	26
REPORT	
令和2年度 定時総会議事録 抄録	14
令和元年度決算書・令和2年度予算書	17
病院・施設紹介	
公益社団法人石川勤労者医療協会 城北病院 木村創史, 他	30
医療法人木星会 山鹿温泉リハビリテーション病院 田代桂一, 他	32
私の備忘録	
地域リハは出会い! 栗原正紀	29
好日	
第13回 突然, 脳損傷により高次脳機能障害をもつことになったら ～次なる人生へ踏み出すために理解と支援を～ 細見みゑ	34
潮流を読む 内山量史	35
お知らせ	
日本リハビリテーション病院・施設協会 新理事紹介 (令和2年度～)	4
各委員会の令和元年度報告と令和2年度活動方針	9
事務局からのお知らせ	39
ご案内	
2020年度リハビリテーション関連学会・研究会・研修会	38
編集後記 植田義美	40



徳永知加子「冬瓜」

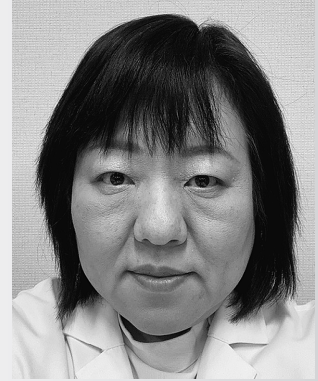
21歳の時にくも膜下出血になり, 丸28年が経とうとしています。後遺症として, 失語症と右片麻痺がありますが, 10年ほど前から書道, 3年前からは絵画に取り組んでいます。立体的にとらえるのが難しいので, 対象物を写真に撮り直して絵を描いています。

絵画は, 失語症で話すことができない私に, 気持ちを落ち着かせながら自己表現できるものとして母が提案してくれました。

若い時にくも膜下出血になったので, 母と二人三脚で歩んできました。今は母と料理を作ることの喜びを感じています。これからもリハビリに励み, 少しでもできることを増やして母に恩返ししていきたいです。

巻頭言

グローバル，ドメスティック，ローカル，コミュニティ再考そしてファクトフルネス



大串 幹

兵庫県立リハビリテーション中央病院 院長補佐

日本リハビリテーション病院・施設協会（以下、当協会）はリハビリテーションに関連する病院・施設の協働でリハビリテーション医療の向上と発展を図り、もって社会の医療、介護、福祉の充実に寄与することを目的に活動しています。歴代の会長のもと、先達は、リハビリテーションという言葉がまだ十分普及していないときから、身近な地域活動、全国の仲間との共働、海外の見聞研修を通して、政策提言やリハビリテーション医療の充実へと進んでこられました。これらの継続のためには、しっかりとした理念・目的に基づく計画と、効果的な実行、適切なアウトカム評価、課題に基づき改善されたアクションのPDCAサイクルが機能し回し続ける必要があります。

以前、地域リハ塾を聴講する機会をいただき、斉藤正身会長の講義の中で読んでおくべき本としてハリス・ロスリングらによる『FACTFULNESS—10の思い込みを乗り越え、データを基に世界を正しく見る習慣』（日経BP, 2019）をご紹介いただきました。目の覚めるような内容で、私も含めて世間の“常識”は20年前で止まっているかもしれないこと、自らのもっている知識自体が、かなりのバイアスによって形作られていることを感じました。正しく十分な知識はもっていても、現状の「事実 (FACT)」を正しく把握できなければ、間違った計画を立ててしまうこととなり、実行力がいかにパワフルであっても、課題を解決できないばかりか、逆に間違った方向へ進む可能性があり、結果さらに事実をわかりにくくし、組織の活動を阻害してしまう恐ろしさを感じます。組織の実行力（知識、技能、コミュニケーション能力）を真に発揮させるためには、（正しい）FACTを共

有することが必須です。

今、FACTを適切に示すことができない状況が続いています。これまで経験したことない、予測不能な状態は、医療・介護・福祉はもとより、教育、娯楽、交通などさまざまな分野でさまざまな方向からの議論であふれており、行政・医師会などの尽力で、さまざまな施策が図られてきてはおりますが、どうしても不十分な部分が出てくるでしょう。リハビリテーション医療にかかわる一人として、もともと他科が取り扱わない症例や医療・介護・福祉制度の組み合わせでの対応などニッチな部分を扱っていますので、今回の感染対応や補助事業などについて痒いところに手が届かないような歯がゆい感じを覚えるのは私だけではないと思います。FACTの基盤となるグローバルな知見は、国内や地域の組織建てに生かされ、逆に地域の求めるものが、国内の施策として反映される。その円滑な流れを持っているのが当協会の持ち味であり強みだと思います。

移動制限が敷かれ、グローバルな視点の獲得が減りそうで心配ですが、それでもローカルやコミュニティにもアイデアの種はありますし、今はもう一度周りを見回してみるよい機会かもしれません。人と人のつながり、かかわりがリハビリテーション医療の原点です。今、感染症や自然（災害）とこれからも付き合っていけるのか、人類として生き残っていけるのかが問われています。課題は山積ですが、コミュニティにあるFACTを見つけ出し、互いに知恵を出し合うことで、自然と上手に戦いつつ、つながりももち続けられるのではないかと思います。

※このページ以降の誌面をご覧ください。場合は、
当協会への入会が必要です。

ご入会のお手続きは下記へ



【入会について】

<https://www.rehakyoh.jp/join.html>